

年頭所感 2021

公益社団法人 海道臨床工学技士会
会長 大宮 裕樹

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

まずは、新型コロナウイルス感染症（covid-19）へのご対応に、医療従事者および関係者の皆さまには感染対策や治療現場でのご活躍に敬意を表したいと思います。

2020年に入り北海道が全国でも早期にcovid-19感染拡大が確認され、長期の緊急事態宣言や不要不急の行動制限によりこの一年多くの自粛が強いられ、特に医療に従事する私たちの生活は責任のもと厳しく制限されているかと思えます。感染拡大の終息はまだ見通せない中、新しいスタイルの生活や社会に順応しこの未曾有の世界的な大災害を乗り越えなければなりません。今年は昨年延期された東京オリンピック・パラリンピック開催予定となっています。その頃にはワクチン開発により感染拡大が制御され安心して世界の人が日本へ渡航できていることを切に祈っております。

さて、われわれ臨床工学技士は医療機器と患者さんを安全に結ぶ専門職としてあらゆる場面で活躍しております。今年は働き方改革により医療職のタスクシフト・タスクシェアが検討され臨床工学技士の業務が変わろうとしており、新たな職域へ進もうとしています。日本臨床工学技士会や地方臨床工学技士会と連携し未来の臨床工学技士のために我々の職能が発展できるよう多方面に活動を発信することと、臨床工学技士一人一人のつながりを強化し組織力を高めることが必要となります。

当会の研修会などの事業については、webを利用した形やハイブリット型の開催により今までより参加しやすく多くの人に参加していただけるようコンテンツを検討したいと思います。昨年導入されました支部制を活用して情報の共有と当会事業の充実を図ってまいりますので皆様のご協力よろしく申し上げます。

昨年は2つの人的支援対策ワーキンググループとwebセミナー推進ワーキンググループを立ち上げました。covid-19感染による透析室運営支援に対する人的支援対策WGは道内関係6団体による支援システムの構築にご尽力していただき、実際の臨床工学技士の施設支援調整もしていただきました。支援者として登録していただきました多くの皆さまに感謝申し上げます。webセミナー推進WGは今年度予定していたセミナーと2021年2月に開催する第31回北海道臨床工学会の中心的なスタッフとして活動していただいております。年内はwebでの開催が求められるかと思えます。継続してwebの利点を生かして皆様への情報提供やコミュニケーションの新しいツールとして還元できればと思います。

「今できることを全力で！！」covid-19感染拡大防止のため制限は多々ありますが、この期間だからこそできることもあります。今まで気づかなかったことが新たに見えてくることもあります。一発逆転はありませんので地道な努力と人とのつながりを大事にしてこの局面をみんなで乗り越えましょう。